

リノベしてステキに暮らす!
いくのdeリノベ

心に描いてきたのは
 暮らしに溶け込むような
 名もなき場所

疎開道路から東へ入ってすぐ、東桃谷小学校グラウンドの向かいに、真新しい木の壁がひと際目立つ建物ができた。日当たりのよい南向きのガラス扉を開けると、大きなウォールナットのテーブルと、それを囲むように一つひとつ表情のちがう椅子が並び、奥にはキッチンが備えられている。無垢の木がふんだんに使われた静かで自然と落ち着く場所だ。

「いたや木材有限会社」の倉庫兼加工場だったこの場所。使われないままに眠っていた木材は壁に張られ、当時の大工さんのメモ書きが残るコンクリートブロックの壁や、様々な樹種の古材を使った天井は当時のまま残されている。

この場所では、学校帰りのこどもたちが宿題をしたり、買い物帰りのお年寄りが一休みしたり、近所の人と一緒にコーヒーを飲みながら読書したり...そんな空間をイメージしてリノベーションしたと話すのは、この会社の3代目で建築士の大塚典子さん。

大塚さんが若い頃、会社の事務所には、近所で商売をするおじさんたちが休憩がてらしゃべりに来たり、お茶に寄ったり、そんな日常の風景があったという。

そんな近所の人が入らんと立ち寄れる“暮らしの一部”に溶け込むような場所を自分も作りたいたいと思いつけてきた大塚さん。「これからまちの人と一緒に、どんな場所に育っていくのか、ドキドキするけどワクワクする」と笑顔で話してくれた。



▲大塚典子さん。子育てを経験する中で、この場所の実現への思いは強くなった。



▲飾り棚の小物一つひとつに、古きよきものを大事にする大塚さんのこだわりが感じられる。

▲車通りの少ない静かな通りに面している。グラウンドで遊ぶこどもたちの声がBGMのように心地良く聞こえてくる。

勝山北3-2-22
 ☎06-6731-1269(いたや木材有限会社)

ブログでは写真を追加して紹介しています。



生野区在住で、古い家屋をリノベーションし、自分らしい暮らしをしている方を紹介してください。

連絡先 区企画総務課 ☎06-6715-9683
 〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら
 区地域まちづくり課 4階44番
 ☎06-6715-9734

もっと知れば
 もっと好き

60カ国以上の方が暮らすまち /

IKUNO×グローバル



日本まで
 7時間

(ナマスカル)
 ナマスカル
 こんにちは!

Bathe Prashanti さん
 (パーテ プラシャンティ)

インド出身。2019年の秋に3か月間インターンシップでリゲッタ(株)に。靴づくりの世界に魅了され、今年1月から正社員としての採用が決まったばかり。ヒンディー語、マラティー語、英語、日本語の4か国語を話す。



靴っておもしろい!

初めての来日は4年前。あちこち旅行して、インドとはまったく違う歴史や文化に触れて、日本が好きになった。帰国後、日本語を勉強して、インターンシップで大阪を希望したらリゲッタに決まった。親戚のおばさんが日本人で、リゲッタの靴のことを知ってたからすごく縁を感じたわ。初めて教わる靴づくりの世界や、「楽しく歩く人をふやす」という会社の思いに刺激されて、「私もここで働きたい!」って思ったの。この靴を通じてインドと日本がつながってワクワクする!

K-POPが好き!

インドの若者にもK-POPは人気なのよ! 私も大好きで、コリアタウンに行くと、好きなグループのグッズとかCDとか買ったりするの。すごく楽しい! ランチには、キムチとかビビンバを食べるの。日本で食べるものは何でもおいしいし、治安はいいし、道路は静かだし(車のクラクションが鳴ってない!)、



▲マトンのピリヤニが大好物! 細長いお米で作るスパイスが効いたインドの炊き込みご飯。

IKUNO×グローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみんな通信 検索



ものづくり企業は地域の誇り /

ピックアップ **生野ものづくり百景**

必要とする人がいるなら
 小さな声にも応えていきたい!

大栗紙工株式会社

めざすは誰もがこちよく使えるノート!

年間約2,700万冊ものノートを製造する大栗紙工株式会社。大手文具メーカーからの受託生産を主事業として、技術力と品質へのこだわりで高い信頼を得ている。

2020年2月、初のオリジナルノートとして「mahora」シリーズを発売。ふとしたきっかけで、ノートの「紙の白さがまぶしい」、「日付欄など線以外のものが気になって集中できない」、「いつの間にか行がなくなってしまふ」など、発達障がいのある人からの声を知り、50年間ノートの生産に携わってきたこの会社だからこそ役に立てることがあるならと、新しいノート作りに挑戦することに。支援団体の協力で当事者約100人からアンケートをとり、その声一つずつを反映しながら試行錯誤を繰り返して作り上げた。発売後も、「こんなもの欲しい!」という新たな声に呼応しているうちに、mahoraシリーズはたった1年で色・形違いの36種類にも増えた。

ノートを使った方から、「字のバランスがとりやすい」、「子どもがノートをとるようになった」など、たくさんの喜びの声が届いたのだそう。「自分たちの作ったノートを、喜んで使ってくれているのが何よりうれしい」と大栗さんは笑顔で話してくれた。



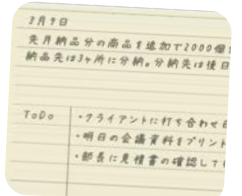
▲社長の大栗 康英さん



▲タイプはセミB5ノートのほか、小さいサイズのノートやA4サイズのシートもある。

色の帯が入っているタイプ▼

太線と細線のけい線が交互に入っているタイプ▼



障がいを持っている人の声を反映してできたノートは、シンプルだからこそ一人ひとりに合った色々な使い方ができ、結果的にたくさんの人にとって使いやすい「ユニバーサルデザイン」のノートとなった!

大栗紙工株式会社
 (巽北3-15-7)
 ☎06-6752-0856

“きらりと光る”ものづくり企業をたくさん紹介しています。

生野区ものづくり百景 検索

